

(科目名) 森里海連環学実習 C (英訳) Exercises in Ecological Interactions between Forests and Coastal Areas C	(群) B群 (単位数) 2単位 (開講期) 前期集中 (週コマ数) 2コマ (授業形態) 実習 (対象回生) 全回生 (対象学生) 全学向 (曜時限) 集中
(所属部局) (職名) (氏名) フィールド科学教育研究センター 教授 吉岡 崇仁 フィールド科学教育研究センター 教授 向井 宏 フィールド科学教育研究センター 助教 中山 耕至 フィールド科学教育研究センター 助教 坂野上 なお	

(授業の概要・目的)

自然景観が気象・地象・海象・生物・人為の相互作用によって形成されていることを実体験することを目的に、北海道東部にある別寒辺牛川上流の自然度が高い森林域、牧草地として土地利用されている中流、そして下流の厚岸湾岸域の生物調査を通して、森・川・里・海のつながりについて学習する。森と川と海が生物を通してつながっていること、さらに人間がそのつながりにどのように関わっているかを実習中に得られたデータや知見をもとに理解を深めることを目的としている。

本実習は、京都大学フィールド科学教育研究センター北海道研究林標茶区、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所を拠点に行う。

(授業計画と内容)

夏季に1週間の集中実習の形で実施する。京都大学フィールド科学教育研究センターの北海道研究林標茶区の森林における植生及び土壌・水質調査実習、別寒辺牛川での生物・水質調査、厚岸湖・厚岸湾での生物調査をそれぞれ2日間程度ずつで行う。厚岸湖・湾での実習は、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所で実施する。野外での実習の間には下記の講義があり、実習方法とデータ解析について学ぶ。

1. 根釧地方の自然環境
2. 厚岸水系の特徴と土地利用
3. 森・川・海のつながり
4. 厚岸湖・厚岸湾の調査方法
5. 厚岸湖・厚岸湾の生物群集
6. 別寒辺牛川の魚類相
7. 河川生物の調査法
8. 森林域における河川水質と物質循環
9. 土壌調査法の概要
10. 河川水質調査法の概要
11. 森林調査法
12. 別寒辺牛川流域の植生とパイロットフォレスト
13. 森里海連環学の課題

実習生は、森、川、里、海の4つの班に分かれて実習を行う。レポートは、各実習項目毎に作成するとともに、班毎にそれぞれの観点から別寒辺牛川流域全体について発表し、最終レポートを提出する。

森里海連環学実習 C (2)

(成績評価の方法・基準)

レポート(50点)、出席状況(25点)、最終発表(25点)を総合的に評価する。

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

- (1)本実習は北海道大学の実習と合同で行う。
- (2)高校で生物を履修していることが望ましいが、理系・文系は特に問わない。
- (3)募集定員は10名程度。定員を超える場合は無作為抽選を行う。
- (4)学生教育研究災害保険等の傷害保険に必ず加入すること。また、旅行保険に加入することを推奨する。なお、保険加入にあたっては、家族等とよく相談すること。
- (5)日程は2011年8月27日～9月2日(6泊7日)の予定。原則として現地集合・解散となるが、詳細は受講者が決定してから連絡する。
- (6)費用は食費等実費が必要である。また、実習地までの交通費は各自負担すること。
- (7)5～6月に募集説明会を行い、日程、費用、持ち物等の詳細を示すので必ず参加すること。説明会の日程・場所等は2011年5月はじめ頃にFSERCホームページ(<http://www.fserc.kais.kyoto-u.ac.jp/>)上で公表するとともに全学共通教育掲示板に掲示する。出席しなかった場合は、原則として受講できないものとする。また、希望者が多数の場合、募集説明会後の募集期間に到着ルートをしっかり決めて応募してきた受講生の先着順となるので注意すること。
- (8)実習の日程上、成績は前期末ではなく年度末に出るので注意すること。
- (9)実習期間中、とくに野外での活動の際には、教員・ティーチングアシスタント・技術職員等からの指示、注意等をよく守って行動すること。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

(分類) 生物学実習

(履修要件)
特になし

(教科書)
実習地到着後のガイダンスでテキストを配布する。
(参考書等)
特になし。

(関連URL)
<http://www.fserc.kyoto-u.ac.jp/>